
やりすぎの転生者

carzoo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やりすぎの転生者

【著者名】

ZZマーク

N1860Y

【作者名】

carzoo

【あらすじ】

やりすぎた少年は、転生して、何をするのか。

プロローグ（前書き）

どうもテース。よろしくおねがいします

プロローグ

プロローグ

大嵐冬斗です。早速ですが、わたくし……死にました
頭イタイ人だとか思わないでください……マジドす！マジなんぢす！
それでいま……
創造神と名乗るオッサンが土下座しておる……

「じーすつやーいーのよ……」

俺はKHを見上げる。

「ああー、KHが白いなあー」

「「「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」……」

「「「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」……」

「グハアツ！」

「せつしきから」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」「めんなさい」……つーか何
で俺死んだんだよー！」

「オオツー死んでおる」と理解しておるのかーならば話は早いー。」

「イヤ、お主の死に方があまつにもかわこやつでのう」

かわいそつ？

「どんな死に方だったんだ？」

「じいじは死になるとじうだ

「わしが隕石打たんじや」

なじい！？

「なんじうたクソ野郎……」

嘘だああああつ！

「ぞ、残念ながら事実じや」

は？（。。）はあ！？（。。）

「ふやけんじやねえー」のクソジジイイイイイイイイイイイイイイ

「お、落ち着くのじやー」

「これが落ち着いていられるかー」コトアー

「お詫びにチートな能力付けて好きな世界に行かせちゃう（コトア）で落ち着くか？」

「わつわつやれー」

「つむ、分かねばよー（す）」豹変ぶつじやのつ）われでは生きた

い世界は何処じゃ？

「ムフフ、」「いやもうめだかボックスしかないっしょー。

「フムフム、めだかボックスか、よからう」

ヨツシャアア！

「わざと能力を決めてしまつてくれ」

「ん、能力があ、別にめだかボックスだとなあ

「過去の設定、俺だけの異常と過負荷くれ」

「説明中、しばらくお待ちください」

「それってかなりチートじゃないかのう、しかもエグイシ

「いいじゃんーどひせだから思いつきりチートにしたいんだよー

「フム、その気持ちは分からんでもないがのう。それで最後かの？」

「あとはもうだなー、あ、そうだ！ サッカーの設定残しといて。」

「よかう」

「では、お主は箱庭学園の生徒で、住む所は箱庭学園から近いところにじておくからの」

「おー、サンキュー」

「ハア…、まあいい、それでは送るぞ～。じゃあの～

俺の下の地面が無くなつた

「おーーーちよつとまでえええーーー！」

「箱庭学園の入学式の二日前じゃからの～」

「このクソジジイイイイイー！次会つたらぜつてーボコるからなあ
あああああああ…………

そして俺は意識を失つた

「あつヤバ間違えて〇歳からこした。まあいつか

そんな神のふざけたこえがきこえたきがした。

プロローグ（後書き）

お初にお会いにかかります。carinoと申します。これからがんばりますのでよろしくお願いします。

主人公設定（前書き）

申し訳ない！間違いがあつて修正しました。

主人公設定

主人公設定

おおあらしふゆと

名前 大嵐冬斗

設定（めだかの世界、ほんとの世界は普通なため）

幼いころに箱庭総合病院にいき、球磨川、めだか、善吉に会うその後の診察中に黒服の男たちに連れられ病院の地下で人体解剖実験の実験体にさせられる、と同時に親に捨てられ一人暮らしを始める。

中学のころに安心院なじみに会い、球磨川と再開し、名前で呼び合う中に、古賀と名瀬は中学のころに車でひかれそうなところを助けて好意を持たれている。本人は気づいてないなぜなら古賀と名瀬に会うのは言っていたが別に恋愛フラグを立てるなどいわれていないので神が勝手にやつたから。あと、これも勝手にやつたことだがいろんな人からもてる。サッカーが得意で大好き。中学のころ日本代表（現実でもそうだった）クラブチームに入っている（でも本編には出さない）

容姿

顔は上の上（前世から）

目は黒く髪は赤い

身長

168cm 体重56kg

性格

普通であつて戦略的、基本的に人が嫌い。

能力

異常

1・
オールアルティメット
完全究極

思つたことを究極にこなす能力。主に人の能力を使うときに発動さ

れる。

例

相手の異常をコピーして自分の思ったものを付け足す

2・

夢の夢
「ドリームオブドリーム

3・

神の皇帝
「ゴッドエンドペラー

他の漫画の技や、自分で考えたことなどを確実にできるようにする
自分の身体能力を何倍にでも引き上げる能力ただし10倍を超えた
らからだがこわれる

過負荷

1・

無の時間
「ゼロタイム

全ての時間を操作する

2・

ペイントレイ
吸収苦痛

他人の痛みを吸収するさうにほかのものに痛みを操作して押し付け
ることが可能

3・

デスペラード
绝望

相手に黒い波動を放ち当たった相手は冬斗と自分の絶望の記憶と痛みを与える（後で発覚し、安心院に取られていふ）

なんだかんだで、俺は箱庭学園入学式の日を迎えた

神の阿呆が0歳から始めさせたせいで長時間がかかった。まあ能力慣れしたからいいけど

「ふああー、寝みー…」

ネットやら何やらあんまり寝てねーんだよなー

移動中

「おお！これが箱庭学園か！広いなー」

ちなみに今はまだ早朝なので登校している生徒は少ない
今のうちに決められたクラスに行つちまおう、混むと面倒だし…
おれは一年一組か…まあこの世界に来てからまだ誰にも異常見せて
ないからなー（見せた奴は全員殺した）、当たり前か…ん？おお！
あれは主人公の一人の人吉善吉じやん！さつそくエンカウントとる
ぜ！

「おい！」

「ん? 何か用か?」

「お前も一年一組か？」

「ああ、《も》つてことばはお前もか？」

「おう、おれは神竜一真だ、ヨロシク！えーと……お前は？」

俺は人苦善苦た。シケな

「おお、おと教室に行かなあいだ」

卷之三

そして放課後

不良に絡まれた。

「せばば金田一、ひ、お！」

「なに二ノゾウか」

そういうて不良は飛び掛つてくる。毎度毎度、馬鹿な奴だ。

「無の時間」ゼロタイム

そういうて、相手の動きを止める。そして、日本刀を差して消えた。消える直前、不良がこんなことを言っていた。「化け物が」つとそれに答える。

「俺はなんの長所も無い普通で普通な《通常》ですよ。ちよつとサ
ッカー好きのね それじゃ、また今度」
ノーマル

翌日、近所で不良が死んだというニュースが流れていった。

第4話 生徒会選挙（前書き）

ど～もで～す。れふうはもひ～、お詫びしあしま～す。

第4話 生徒会選挙

第4話

生徒会選挙

さて今週から生徒会選挙だ ん? 時間飛んだつて?
だって学園生活つて毎日毎日同じようなことばつかなんだよ(主に不良殺し)

あ、途中から不知火入つてきただけどな
おーあれば!

「おーい、善吉ー何やつてんだ?」「見りゃわかるだろ、選挙活動だー」

いや、見りゃわかるけどさ…

「じゃあお前、生徒会選挙出るんだ」「ちげーよ、あいつの手伝いだ」「あいつ?ああ、あの完璧超人か
でもあるお嬢様と善吉つてどんな関係なんだ?」「ただの幼馴染だ。つち、前はもう一人いたのに……(ぼそ)」「あー、不幸なことでへえ、まあ頑張れよ。じゃあまた後で

「おひへ、じゅあな」

そしてホームルーム前

……おいおい、いくらなんでも遅くねーか？もうすぐ先生来るぞ

ガラツ！

「冬斗！…俺まさか遅刻か！？」

「いや、ギリギリセーフだ「キンコーンカーンコーン」ほらな？」

「た、助かつたあ」

「にしても遅かつたなんがあったのか？」

「あのお嬢様の無茶ぶりに最後まで付き合つてたらこいつなった」

「あー、それ以上言つなんとなく想像つくから」

大変だつたんだろうなー

そして選挙結果発表当田

ん？またかなり時間飛んだつて？だから学園生活つて書くことない
んだつて

「それでは、生徒会選挙を発表します。生徒会長に当選したのは…

……支持率98%で1年13組の黒神めだかさんです」

まあそりやそーだろー、だつて

「貴様達の悩み事は私の所有物だ。ひとつ残らず私に貢げ！…だぜ？」

クッククック、今思い出してもおもしれー
つーことは明日は全校集会での演説か…、楽しみだなー

いづして生徒会選挙は終りを告げた。

あつちなみに今日も近所で不良の死体が発見された。

原作?どうやって介入する?

原作?どうやって介入する?

さて、原作介入の仕方として現在思い描いているのは、風紀は味方、
フラスコ傍観、過負荷は敵。

まあ、この方法で行けば、自分は、大いに楽しめるだろ?。

時は変わり

あればめだかと人吉じゅん。 あの方角は剣道場だから…………

めだかと人吉を尾行中

ガラツ

「あ?誰だアお前ら」

「1年13組生徒会執行部会長職黒神めだかだ

目安箱への投書に基づき、生徒会を執行する!」

「あー聞いてんぜ! 今をときめくイカれた新会長つて奴だろ?」

こんなところでお出でになるとは驚きだな！

支持率98%だか何だかしらねーが、生憎俺らは残り2%の方だぜーー！」

おいおい、アンタらもめだかの噂は聞いてるだろ？ なんでビビらねーんだ

すげーのか世間知らずなのかどつちだ？（今は物陰に隠れて傍観中）

「貴様がリーダーの門司3年生だな？」

剣道か、懐かしいぞ。私も昔少しだけかじったよ。この木刀もよく手入れされてある。黒檀とは随分と張り込んだものだ

「！？（え…あれ？）いつの間に取られた！？感覚どこのりか気配もしなかつたぞーー？」

無刀取りって……かじった程度じゃできねーよ
もはや奥義だそれは、俺もできないことは無いが

「かつ囮め、おめーらーー！」

「おつおつーーー！」

めだか相手じや囮んだって意味ねーよ。歯痒いな。

「……制服改造に染髪、装飾……

校則違反のオンパレードだな

まあ、私もあまり人のことは言へんが

確かにってかめだかが着てるあの制服つて制服改造で校則違反じゃねーの？

あ、分身の術もどきだ

「なつ何イイイイー！？」

つーか残像が見えるつーてどんだけ早いんだよ。どこかの、ボトさんもびつくりだぞ。（残像は生身の人間が出すことは不可能です）

「それでもタバコだけは控えておけ。貴様達の健全な成長を阻害するし

何より将来の楽しみがなくなるぞー。」

「え…オレのタバコ！？」

「な…何だ今…！？」

「忍法か！？」

……「うん、「忍法か」といつた君、君の眼は正常だ
あれは一般人の目には忍法にしか見えん
ん？俺？俺は見えたぞ。しかもバツチリ
あの程度なら俺でもできる。動体視力は、たいタツのおにがスロー
で見える感じだ！

「しかしまあ、荒れ放題だな

よくもここまで学園施設を荒廃させはるものだ
逆に感心したくなる」

生徒会長が感心してビーするよ

「なつなんだよセツキヨーかよー！」

「お呼びじやねーんだよ会長さんよおー。」

「いい気になつてんじやねーぞコリマーー。」

剣道部の皆さんが、非難の声を上げるが、もつ遲い。あれが出来るか？

「哀れなことだ」「

ほら来た。くくく…

「！？」

「貴様達もかつては真っ直ぐな剣道少年だったに決まっている何か重大な理由があつて挫折を経験し道を踏み外してしまったとしか考えられん」

うわーお、相変わらずとてつもない勘違いぶりだな、おい普通はそんな考え方できねーよさすが『上から目線性善説』誰にもまねできねー。よくあんなのとずっと一緒にいるよな善吉。

「親に見捨てられたか？
良き師に出会えなかつたか？
友に裏切られたか？」

いつも思つけどなんでいちいちポーズとるんだ？なんかむかつく

「安心しろ、私が貴様達を更生させてやる！
剣の事以外何も考えられないよつにしてやる」

それって不味くね？精神科連れて行かれるぞ

「矯正してやる、強制してやる
改善してやる、改造してやる」

いや、強制と改造は絶対ダメだろ めだかって時々危ない発言する

よな。(+) いつが言える事ではない)

「一度ただ、いかがりながら、おもてねよひ方に、たり笑つたつでねなくし
へやる」

いやだから精神科連れて行かれるっての

までは素振り1000回からた！

貴様達 今日お歩いて帰れると思ひなよ。」

不良達のご冥福をお祈り致しますアーメン（俺は、キリスト教じゃねエゾ）

数時間後

「も、もうだめだ
「体がピクリとも動かねー
「し、死ぬ」

ずつと見てたけじやー、あれはまつこなんでもんじゃねーよ
よく生きてたなアイジーハ

「それで、いつまで隠れているつもりだ？大嵐同級生」

おー、やつと出番かー！田立つてやるい。

「...?」
「...?」

「…………こつから気が付いてたんだ……？」生徒会長

「善吉と共にここに向かっているときから誰かに尾行されている気が配はしていたまあ、半信半疑だったがな」

「へえ、じゃあ確信したのは？生徒会長。黒神めだかさん？」

「確信したのは門司3年生達のタバコを取った時だその時に貴様の姿が窓に映っていたからな。」

「さすが生徒会長、お見事ですじゃあ用も済んだし帰らせていただきますよ」

「まで、貴様の用とはなんだ？」

「んー、なんて答えようかな」 こっかっこよく……

「今後、計画に支障が出ないかどうか確かめるためですかねイマのあなた方程度じゃあ障害にならないことが分かりました それじゃあまた」

「あーおーーー」

後ろでなんか言つてるけど聞こえないフリ

こうして原作介入1田田は終わつた

今日は、不良に会わなかつた。つち残念だ。

あれ？ やりすぎた？（前書き）

主人公がやりすぎます。

あれ？やりすぎた？

あれ？やりすぎた？

剣道場

ドガツ バギツ グシャツ

只今日向君が剣道部相手に制裁という名の暴力を下しています
でもこれなら全国レベルだって言う不知火の情報も頒けるな。俺の
ほうが強いけど。

「つたくよ～、高校ではいっ子ちゃんと通したかつたんだけナ～

「だ……誰だお前……？」

「僕？僕は真面目な一年生ですよ」

真面目なら暴力事件おこさねーけどな

「真面目に剣道がしたい、真面目で真面目な男です
だけど聞いてくださいよ！僕団体行動とか上下関係とか苦手でし
てね

先輩とか顧問とかと揉めて、いつもボコッしゃうんですよ。そ

れで試合出れねーの「

田向……それはお前が悪い
つか我慢しろよ

「う……それで、剣道部が休部中のこのガツコに来たってわけか」

いや部員一人じゃ試合とか出れねーだろ

「ピンポーンー」こーでなら一人で好きにできますからね
でも計算外、剣道場には招かれざる先客がー。
そこで例のバケモン女こと生徒会長に草むしりをお願いしたんですけど

うまく事が運ばねーもんすねー

あ、助けを期待してんなら無駄ですよ

あの女、今頃役員募集演説の真っ最中ですから

残念ながらここに一人助ける人がいるんだよなー

まあ、俺だけど（笑）。やりすぎるけど（笑）

「しつかし、ここをキレーにしてくれたのは助かつたかな？立つ鳥
跡を濁さずつスね」

うん、確かにキレーだ

「あ……待てよ。勝手なこと呟えてんじゃねえよーー
たつた今思い出したわ
俺は昔剣道少年だつたんだよーー！」

それって本当なのかな

どうでもいいか

「俺も

「俺もだ……」

俺なんか日本一の剣士指してた……気がする

気がするだけかよ！！

גָּדְעָן־בָּנָיִת

エロツチアがエロた奴が簡単に改心して立ち直りはじめてんじゃ
ねーよ！

だ
！
！
』

つぐ、俺としたことが感情を出しきりになつた。つま、行くけど。

ガシツ！

俺が木刀を掴む

「もつねりにしたら、日向ね？」

卷之三

日向が木刀を横なぎに振る

それを俺は某、超が口癖の学園都市の住民の鎧素装甲で防ぐ
そして俺は日向の腹に神の皇帝で強化した蹴りをする
さらに日向が怯んだすきに回し蹴りを食らわせふつ飛ばす

「オイよく聞け口向、お前も暴力事件のこじての時点でもロッパー
やってんだよ。だから…………」

「つー？ う、うるせえ！！

お前、剣道三倍段つて知つてつか！？」

ドガツ

俺が右足を日向に叩き込む

「しらねーよ！！カス！！」

「ぐ……が……あ……」

さて、用も終わつたし帰るか
そういうえば、人吉来なかつたな
まあいいか、面倒だし

「おい、お前……なんで俺らなんかのために……」

うーん……なんでつて言われてもなー
原作介入したいからなんて言えないし

「ん？ なんとなく、俺はただただ、ここに通りかかった箱庭学園の
規格外だぜ。」

我ながらかっこいいこと言つたなー

このあと日向はめだかに更正されるんだつたな

日向尾行しよ。つつーか歩けるんだ。

尾行中

「くつそ、神竜の奴！ あんなにつえーなんて聞いてねーぞ
なんで十一組じゃねーんだ！？ つてか、もう13組だろーー！」

だが、絶対にこのままじゃ済まされないつかギッタンギッタンにしてやるぜーーー！」

「まあ、そんなに荒れるものではないぞ？ 田向同級生」

「ああ、田向……どんまい……」

「せつ生徒会長ー？」

「なななつなんでつー役員募集会はどうしたんだよーーー？」

「問題ない。ちやんと代理を置いてきた」

「不知火か……巻き込まれたな

「それで……また覗き見か？ 神竜同級生」

「あぢやー、またばれちゃいましたか、こうなりや次からは奥のてつすね」

「ひーいっーじつ神竜ー？」

「ふむ、その怯え様だとこいつにしきつこお灸をすえたようだな」「ええ、あなたの教え子の剣道少年たちを虐めていたのでじゃあ、部活に入つてないのでもう帰りますわあと田向……まあ……頑張れよアーメン」

俺は十字架を切る

「？」

そして俺は帰宅した。不良と喧つかマフィア殺して。

「さて、貴様への話の続きだが」「なつなんだよーーー利用された仕返しでもする気かよーーー」

「利用も何も生徒会は『ご利用いただくためにある
これからも大いに活用してくれてよいぞ
貴様に会いにきたのは単なる別件だ

『「クラスメイトの日向君の性格が悪そなので治してあげて』』

「だそうだ」

「しつ不知火イ！」

「哀れなことだ

貴様もかつては天使のように純朴な少年だったに決まっている
不幸にも愛情に恵まれなかつたが故にそんな独善的な性格になつ
てしまつたとしか考えられん

安心しろ！一度と悪だくみなどできないうこの私が徹底的に可
愛がつてやる！…」

「（神竜が言つてた頑張れつて）ことだつたのかアアアアア…
ギャアアアアアア…」

その日男の悲鳴が町中に聞こえたといつ…

「（日向、ドンマイー…）」

翌日

原作通りに剣道部は日向が指導を務めている

「べつ別に、あの女に言われたからじや……」

……シンテレン

そして人吉も生徒会に入ったようだ
さて、次に介入するのは……

うーん、しばらくは普通の依頼ばつかだからな

となると……鍋島先輩の次期部長選びのとこか
あそこで阿久根高貴が初登場なんだよな
よし！次はそこで介入しよう！
なぜか鍋島先輩に、目えこないだつけられたし！

あれ? やつすぎた? (後書き)

今日の質問

皆さんの好きな歌は何ですか?

第7話 阿久根VS冬斗

阿久根VS冬斗

やつと阿久根高貴初登場の日が来たよ
いやー長かった！

さて、柔道部の見学っていう形で行こう！うん、それで行こう！
鍋島先輩とも顔見知りだし大丈夫だよね……一回しか会ってないけど…

じゃあ行こうっと

にしても柔道場でめだかに勝負挑もうかな？
でもな、ここで勝つと要注意人物としてマークされそうだし…
どうしよ…。そういうしている内に着いてしまった

俺が入つても気付かずに柔道を続けている

好都合だ、このままめだかと人吉が来るまで誰も気付くなよ…

「ん？ おお、冬斗クンやん。久しぶりやね。」

気づかれたし！しかも覚えてたし！なんで覚えてんの！
覚えていると思ってた俺が言つのも何だけどやあ！

「お久しぶりですねそう言えれば、鍋島先輩は柔道部の主将でしたね、
といふかよく覚えてましたね」

「よく言つわ、まったく隙を見せなかつたやん柔道部になんか用か
？」

「ええ、柔道界のプリンスいや、破壊臣と謳われる阿久根先輩を一
目見ようとね…」

そり…、かつて中学時代に破壊臣と言われ、球磨川の指示で黒神めだかを破壊するも、めだかがあまりにも抵抗せず阿久根の立場が悪くなり、人吉等に報復されそうになるが、めだかに救われてからは敬愛するようになる。俺から見たら嫌いな奴だ。

俺は今回、その破壊臣の実力を見に来たのである
まあ、柔道の実力だけな

お？人吉達が来たみたいだ

「じゃあ、ウチは用事があるからまた後でな」「

「分かりました」

さて、見せてもらおうか？破壊臣の実力を

さて、阿久根先輩の実力を見に来た俺だが…

「ふん！相変わらずめだかさんの足を引っ張ることに精を出しているようだな！」

だがいくら虫とはいえ君ももう高校生だ

大きな岩の下に潜んでいた虫の習性は分かるが、そろそろ独立立ちすべきじゃないのかい？」

「…独り立ちで来てねーのはどっちですか

何もできない？変な変態をめだかちゃんに近づけないくらいのことは出来ますよ？」

……何この空気？

どんだけくどくどぶちぶちいってんだよ。むかつくな

そしてめだかは柔道部員相手に無双中……

やっぱ勝負挑んでみようかな？つま、まずは、この一人を片付けないとな。

「おーおーお前らくびくびくびくび、馬鹿みたいに言い合いでんじゃねえよ。気持ちわりい」

「なんだい？君は、もしかしてそこの虫の仲間？」

「つは、ンなわきやねえだろ。俺はただあんたらがうぜえからとめにきただけだ」

「冬斗、お前一体どうやつたらいくと行くとこにくるんだ？」

「つまいいじやねえか別に」

「にしても、それに比べたら凡人のクセに天才に付き従つとうジブンのほうがよっぽどスゴイやんない？部活荒らしの人吉善吉クン？」

「へえ、最近噂の部活荒らしつて人吉だつたんだ でも鍋島先輩、

人吉のことえらく気に入つてるようですね」

「（冬斗変わり身早！）」

「うん！人吉クン見たいながんばり屋さんがうちはめっちゃ好きなんよ」

「へえ、鍋島先輩つて人よしみたいな人がタイプなんですね
そうだ！阿久根先輩、人吉が会長のそばにいるのが気に入らない
のなら勝負したらどうですか？」

人吉が勝てば今まま生徒会にいて、阿久根先輩が勝てば人吉は柔道部の次期主将になり、阿久根先輩は生徒会に入る、というのはどうでしょう？阿久根先輩も人吉に実力があれば文句ないでしょ？

どうですか？鍋島先輩

「うちはそれでかまへんよ」

「僕もそれに賛成だがハンデをあげよう
僕が十回取るまでに君が一本でも取れたら君の勝ちでいいよ」

「だそうだ人吉、頑張れよ」

「ええ！？これって拒否権はないのかよ」

「それじゃあ一人とも準備してきてください」

お、めだかが帰ってきた。どうやら終わったみたいだ
柔道部員たちは…ボロボロだな

「会長、お疲れ様です」

「ん? 大嵐同級生かいや、そんなには疲れていない」

まあ、そりゃあそだらうな

バケモン
天才だし

俺もだけど(笑)いや、俺は規格外か
準備ができたみたいだ

「それでは始め!」

ドンッ

は、早いな一本取られるの

「人吉君、君には何もできないというのは訂正しよう。

君のその努力と根性は認めよう
だが、それだけでは僕には勝てない」

その後も原作と同じく人吉は阿久根からは一本も取れず九本目まで
取られてしまった

「(人吉の氣力が尽きかけてるな
といふことはめだかの応援はそろそろか?)」

「人吉、私は如何なる場合においても決して私は貴様に勝てとは言
わない」

つてもなあ、これって本当に勝てるのか？

「だから勝つて！！

貴様がいなくなつたら私はすぐ嫌だぞ困るぞ泣いちやうぞ！」

う、うわあ

これが黒神めだかの真骨頂その一、『ツンデレ』か……
生で見るのは初めてだが、ほんとにいつもとキャラが全然違うな
阿久根と鍋島先輩若干引いてんじゃねえかよ

「お前が泣いてるところなんて見た事ねえし見たくもねえよー！」

ズドォンッ

人吉が双手刈りを決めて一本を取つた
やつぱりここも原作と同じか…つまんね、俺が試合ぶち壊すんだつ
た。

「そろそろ俺は帰らせていただきます」

「あれ？柔道部には入んないんか？」

「はい、今回は生徒会と阿久根先輩の実力を見に来ただけですから」

「へえー、じゃあ勝負しようや」

「は？」

「おーい！阿久根クンー！」こじる冬斗クンが勝負したいそーなん

やけどええか

「はあ！？」

「ええ、構いませんけど」

なんで阿久根もOKすんだよーまさか、さつきの恨みか！

「じゃあ、柔道服に着替えてきてな～」

何でこうなった！

「（ふふふ、実力見せてもらひで～冬斗クン）」

準備終了

「それでは、阿久根高貴対大嵐冬斗の試合を始めます～お互いに、

礼！」

「お願いします…」

「お願いします」

「それでは……始め！」

こ^{セロタイム}は無の時間からの背負い投げで「ゴー～でいくか

パチンッ

と指を鳴らすそこで時間が止まる

俺は阿久根のそばに行つたとこりで時間を戻し腕を掴み一気に背負い投げで決める

ズドオン！

「つー？」

「なつ…！？」

「…！」

まあ、背負い投げつつつても、他人から見たらいつの間にか阿久根

が投げ飛ばされているとしか見えないだらつ

「…審判」

「あ…こ、この試合、大嵐冬斗の勝ち！」

「ふー、じゃあ着替えて帰りますよ。本気出すんじゃなかつた。」

「え、ちょ、ホンマに柔道部入らへん？」

「言つたでしょ、実力を見に来ただけだつてじやあ、さよなら～」

その後、俺は帰宅した今日は10人殺した。

それぞれの心の声

（鍋島）

何なんや、あの新入生は！？

いくらなんでも出鱈田過ぎるで…？

柔道界で全国レベルの阿久根クンを瞬殺つて有り得へんやろ！しかも阿久根クンのところへ行くまでのスピードが尋常じやなかつたやろ！。まるで時間を止めたような…

（人吉）

最初俺はアイツを、どこにでもいる普通の通常だと思つていた
だが、剣道場でその気配にすら気付けなかつたり、今阿久根先輩と
勝負し瞬殺した実力を見ても通常だとは信じられない
アイツはいつたい何者なんだ？

それに、アイツが言つてた『計画』って何なんだ？

翌日、阿久根は生徒会に入つたようだ
されて、次はどう介入していくかな

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1860y/>

やりすぎの転生者

2011年11月17日20時20分発行